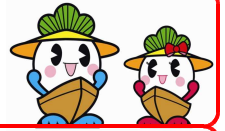




ふるさと笠松の「ちょっといい話」No.92



こんな素敵なボランティア活動を発見!

① 名岐バイパスの高架下でゴミを自主的に拾う人を発見



寒い日でした。車で名岐バイパスの高架下付近を走っていましたが、一人の方が道路脇の堤防を袋を持って歩いてみえます。何をしてみえるのだろうか?と、気になって車を降りてそばまで行きました。「何をしてみえるのですか?」と、お尋ねしました。「この辺りのゴミを拾っています。」と答えられました。「どうして拾われるのですか?」と、重ねてお尋ねしたところ、「私はバスの運転をしています。この辺りを通るといつもゴミが目立ちます。ドライバーやバスの乗客などみんなが気持ちよくなるようにと思って、週に2度ほど拾っています。」と答えられました。すばらしい行為です。こういう実践者は町内に多くみえることでしょう。

② ファミリーマラソンでスタンドを掃除する集団を発見



今年も新春ファミリーマラソンが競馬場で盛大に行われました。

マラソン大会の表彰式が終わってから、スタンドでは写真のように自主的に掃除をするスポーツ少年団と岐阜工業高等学校の野球部

員の姿がありました。長い時間掃除をしていましたからきつと、自分たちが汚した場所でないところも掃除をしていることだと思います。施設を使わせてもらった時には、「来たときよりも美しく」が合い言葉であり、常識と言ってもよいでしょう。しかし、本当に実行に移せているグループは限られています。多くの方が次の人のことを思いやり、「来たときよりも美しく」できるといいですね。



③ 「つどい」の音響や照明のお手伝いをする人たちを発見



「創造集団 Do」の主宰 河合 秀三 様

この活動をしてみえるのは「創造集団 Do」です。昭和58年頃20人ほどで活動を始められました。今は19人だそうです。音響や照明はお金がかかるので、お手伝いをすれば、隔年の発表会が毎年開けるかもしれないと思い、活動をはじめられたそうです。

笠松町の若い人へは、「町の行事に顔を出して欲しい。スポーツだけではなく文化が盛んな町にしたい。」と言われました。

また、「若い団員を募りたい。」とも言われました。

